



2026 年 9 月 1 日

各 位

会 社 名 株式会社アンビションDXホールディングス

代 表 者 名 代表取締役社長 清水 剛
(コード：3300 東証グロース)

問 合 せ 先 執行役員兼経営管理部部長 尾関 文宣
電 話 番 号 03-6632-3700

(訂正)「2026 年 6 月期通期連結業績予想と実績値との差異に関するお知らせ」

の一部訂正に関するお知らせ

当社は、2026 年 8 月 13 日に公表いたしました「2026 年 6 月期通期連結業績予想と実績値との差異に関するお知らせ」の記載内容の一部を訂正いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 訂正の理由

本日公表いたしました「特別損失の計上並びに(訂正)「2026 年 6 月期決算短信〔日本基準〕(連結)」、「2026 年 6 月期通期連結業績予想と実績値との差異に関するお知らせ」及び「2026 年 6 月期 決算説明資料」の一部訂正について」に記載のとおり、連結子会社である株式会社DRAFTに係るのれんの未償却残高の全額について減損損失 238,340 千円を特別損失に計上するとともに、同社に係る繰延税金資産 28,517 千円を取り崩し、2026 年 6 月期決算の訂正を行ったことによるものであります。

2. 訂正箇所

訂正箇所には下線を付して表示しております。

【訂正前】

1. 通期連結業績予想と実績値の差異に関して

2026 年 6 月期通期連結業績予想と実績値の差異 (2025 年 7 月 1 日～2026 年 6 月 30 日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 64,144	百万円 4,800	百万円 4,143	百万円 2,776	円 銭 389.95
今回実績値 (B)	54,131	4,124	3,508	<u>2,312</u>	<u>323.98</u>
増 減 額 (B - A)	△10,013	△676	△635	<u>△464</u>	—
増 減 率 (%)	△15.6	△14.1	△15.3	<u>△16.7</u>	—
(ご参考) 前期実績 (2025 年 6 月期)	52,372	3,946	3,524	2,350	335.91

2. 通期連結業績予想と実績値の差異理由

売上高につきましては、売買 DX インベスト事業において販売用不動産の売却時期が計面对比で後ろ倒しとなったことが主な要因であります。当該物件は当連結会計年度末において販売用不動産として保有しており、翌連結会計年度において売却を進めてまいります。

また、その他事業に含まれるライフライン事業において、販路拡大に向けた先行投資がかさんだことにより、営業損失を計上いたしました。

営業利益、経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、上記の売上高の減少等に伴い、いずれも前回発表予想を下回りました。

一方、主力の賃貸 DX プロパティマネジメント事業におきましては、管理戸数の増加及び高入居率の維持によりストック収益が拡大し、当連結会計年度のセグメント売上高は 23,656 百万円（前連結会計年度比 9.3% 増）、セグメント利益は 3,169 百万円（同 31.4% 増）となりました。この結果、当連結会計年度の連結売上高及び営業利益は、前回発表予想を下回ったものの、前連結会計年度をそれぞれ 3.4%、4.5% 上回っております。

【訂正後】

1. 通期連結業績予想と実績値の差異に関して

2026 年 6 月期通期連結業績予想と実績値の差異（2025 年 7 月 1 日～2026 年 6 月 30 日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想（A）	百万円 64,144	百万円 4,800	百万円 4,143	百万円 2,776	円 銭 389.95
今回実績値（B）	54,131	4,124	3,508	<u>2,045</u>	<u>286.59</u>
増 減 額（B－A）	△10,013	△676	△635	<u>△731</u>	－
増 減 率（％）	△15.6	△14.1	△15.3	<u>△26.3</u>	－
（ご参考）前期実績 （2025 年 6 月期）	52,372	3,946	3,524	2,350	335.91

2. 通期連結業績予想と実績値の差異理由

売上高につきましては、売買 DX インベスト事業において販売用不動産の売却時期が計面对比で後ろ倒しとなったことが主な要因であります。当該物件は当連結会計年度末において販売用不動産として保有しており、翌連結会計年度において売却を進めてまいります。

また、その他事業に含まれるライフライン事業において、販路拡大に向けた先行投資がかさんだことにより、営業損失を計上いたしました。

営業利益及び経常利益につきましては、上記の売上高の減少等に伴い、いずれも前回発表予想を下回りました。また、親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、これらに加え、連結子会社である株式会社 D R A F T の事業の再構築を図る必要が生じたと判断したことから、同社に係るのれんの未償却残高の全額について減損損失 238,340 千円を特別損失に計上するとともに、同社に係る繰延税金資産 28,517 千円を取り崩したことにより、前回発表予想を下回りました。

一方、主力の賃貸 DX プロパティマネジメント事業におきましては、管理戸数の増加及び高入居率の維持によりストック収益が拡大し、当連結会計年度のセグメント売上高は 23,656 百万円（前連結会計年度比 9.3% 増）、セグメント利益は 3,169 百万円（同 31.4% 増）となりました。この結果、当連結会計年度の連結売上高及び営業利益は、前回発表予想を下回ったものの、前連結会計年度をそれぞれ 3.4%、4.5% 上回っております。

以上